

作業機械概要

作業名	使用機械名	作業の様子など
<p>1 耕起</p> <p>（ハーベスタなどの踏圧により硬化している土壌の耕盤を破碎する。バックホウで天地返しを行う際は、掘り下げすぎないように工夫する。除草目的でプラウを用いる場合があるが、耕起後に硬盤を形成するので要注意。（サブソイラ等で心土破碎すると良い）</p>	<p>バックホウ</p> <p>プラウ</p> <p>プラソイラ</p>	 <p>バックホウ</p>  <p>プラウ</p>  <p>プラソイラ</p>
<p>2 砕土</p> <p>（耕起した土壌をある程度乾燥させた後に整地する。）</p>	<p>ロータリ</p>	 <p>ロータリ</p>
<p>3 堆肥散布</p> <p>（条蒔き機は、植付け後に堆肥を散布する場合などに利用）</p>	<p>マニアスプレッター</p> <p>堆肥散布機</p> <p>条蒔き機</p>	 <p>堆肥散布機</p>  <p>堆肥条蒔き機(3条)</p>
<p>4 採苗・調苗</p> <p>（硬化芽子やメイチュウ被害芽子の苗は、発芽率の低下等を招くため可能な限り取り除く。）</p>		 <p>苗切り機</p>
<p>5 植付け</p> <p>（作溝、植付、施肥、殺虫剤散布、覆土、てん圧の各作業が一工程でできる。全茎式プランターの場合は、人力等で苗を刈り倒し、下部の硬化芽子やメイチュウ被害芽子を切除したものを利用する。）</p>	<p>全茎プランタ</p> <p>ビレットプランタ</p>	 <p>全茎式プランタ(牽引式)</p>  <p>全茎式側方プランタ</p>  <p>ビレットプランタ</p>

作業機械概要 作業名	使用機械名	作業の様子など
<p>6 平均培土 高培土</p> <p>株元に覆土することで、根域を拡大するとともに、台風等強風時の倒伏による根上りを軽減する。 干ばつ期や少雨の時期には根の損傷により被害が増大するので培土作業は控える。</p>	<p>中耕ロータリ</p> <p>小型トラクタロータリ</p> <p>クローラ耕うん機</p>	 <p>中耕ロータリ(培土)</p>  <p>小型トラクタロータリ</p>  <p>クローラ耕うん機</p>
<p>7 農薬散布</p> <p>植付け後は雑草の繁茂を抑制するため除草剤(土壌処理剤や茎葉処理剤)、発芽揃い期以降は、メイチウ類の被害防止のため殺虫剤を散布する。周辺作物への農薬飛散(ドリフト)に充分注意する。</p>	<p>ブームスプレーヤ</p> <p>動力噴霧機</p>	 <p>ブームスプレーヤ</p>  <p>動力噴霧機</p>  <p>動力噴霧機</p>  <p>動力噴霧機</p>
<p>8 収穫</p> <p>ハーベスタによる機械収穫は、ハーベスタの全長がトラクタより長いため、旋回用の枕地として4m程度は確保する事が望ましい。</p>	<p>全茎収穫機 (刈倒し機)</p> <p>細断式収穫機</p>	 <p>全茎式収穫機</p>  <p>収穫機(小型)</p>  <p>収穫機(中型)</p>  <p>収穫機(大型)</p>
<p>9 株出管理</p> <p>株出し管理作業は、収穫直後に実施することが望ましい。 2ヶ月以上経って実施すると悪影響となることもあるので要注意。</p>	<p>枯葉細断処理機</p>	 <p>枯葉細断処理機</p>

作業機械概要 作業名	使用機械名	作業の様子など
<p>9 株出し管理</p> <p>複合管理機 近年、株揃え・施肥・除草剤散布等の各作業を1工程で実施可能。</p> <p>株揃え(機械収穫後のみ) 収穫後の株を土ごと5cm程度切り戻すことで、深い位置からの萌芽となり、株出し栽培時の高培土の効果が高まる。 株揃えは収穫直後に実施することが望ましい。 株割施肥 株元を割りながら、土中施肥することで、施肥効果が向上。</p> <p>根切り・中耕 新しい根の発根が促されるとともに、畝間(作土層)の保水性、排水性が改善される。</p> <p>心土破碎 収穫後は畝間の土が締まっていることが多いことから、畝間を心土破碎することにより排水性を改善する。</p>	<p>株揃え機 株出し複合管理機</p> <p>根切・排土作業機</p> <p>中耕ロータリー(根切り)</p> <p>サブソイラ(根切り)</p>	 <p>株出管理機(大型)</p>  <p>株出管理機(中型)</p>  <p>株出管理機(小型)</p>  <p>株揃え機</p>  <p>中耕ロータリー(根切り)</p>  <p>根切・排土作業機</p>  <p>サブソイラ(根切り)</p>
<p>10 その他</p> <p>一芽苗等の育苗した苗を移植や補植する場合、補植用の杖等を用いて穴を空けるとスムーズに移植できる。 耕畜連携により家畜糞尿を利用する際、バキュームカーが使用できない場合は、家畜糞尿を貯留する装置をしつらえ、ポンプ等を用いることで、圃場への散布が可能になる。</p>	<p>補植ツール</p> <p>無人ヘリコプター</p> <p>スプリンクラー</p>	 <p>簡易補植ツール(欠株補植)</p>  <p>無人ヘリコプター(農薬散布)</p>  <p>スプリンクラー(かん水)</p>